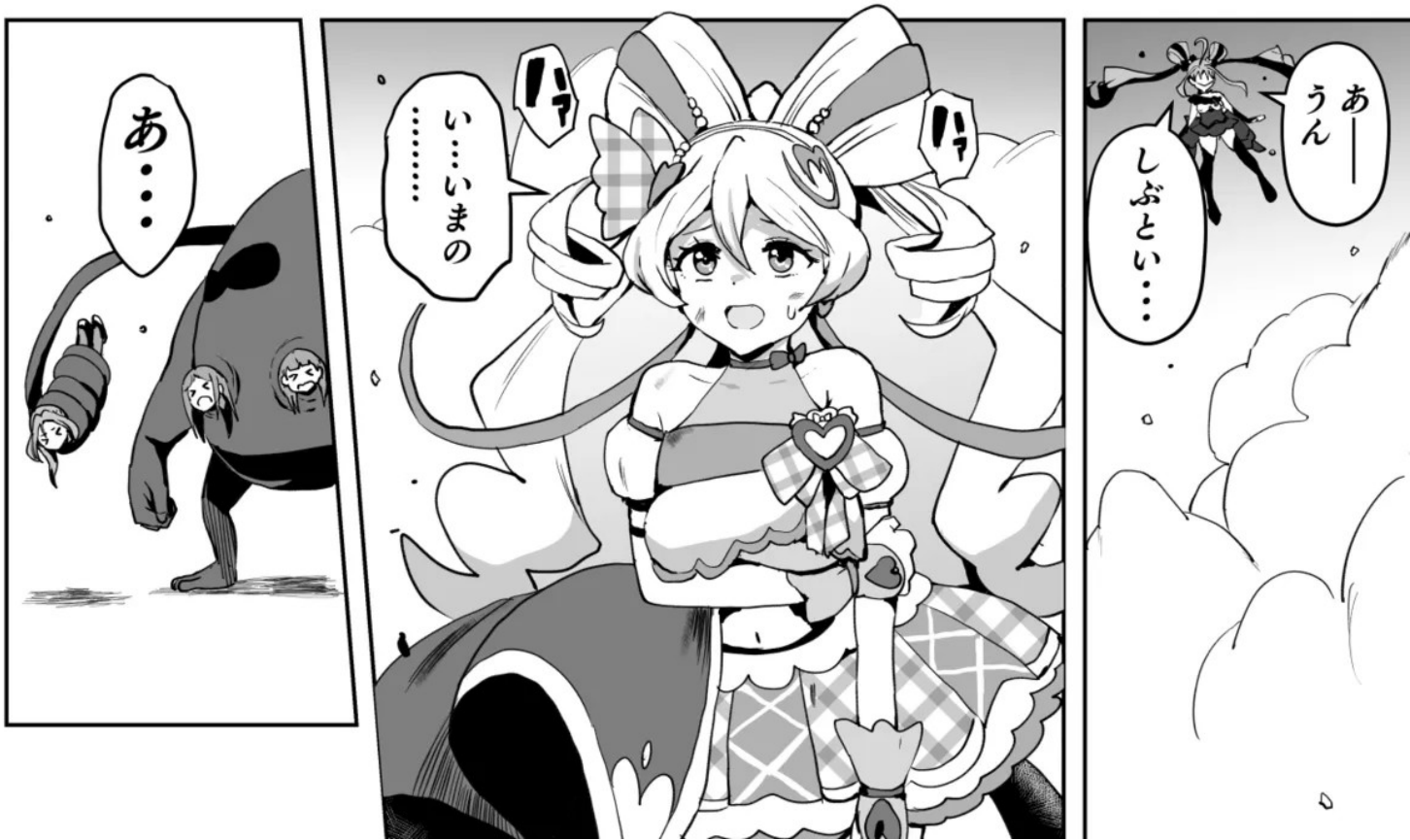
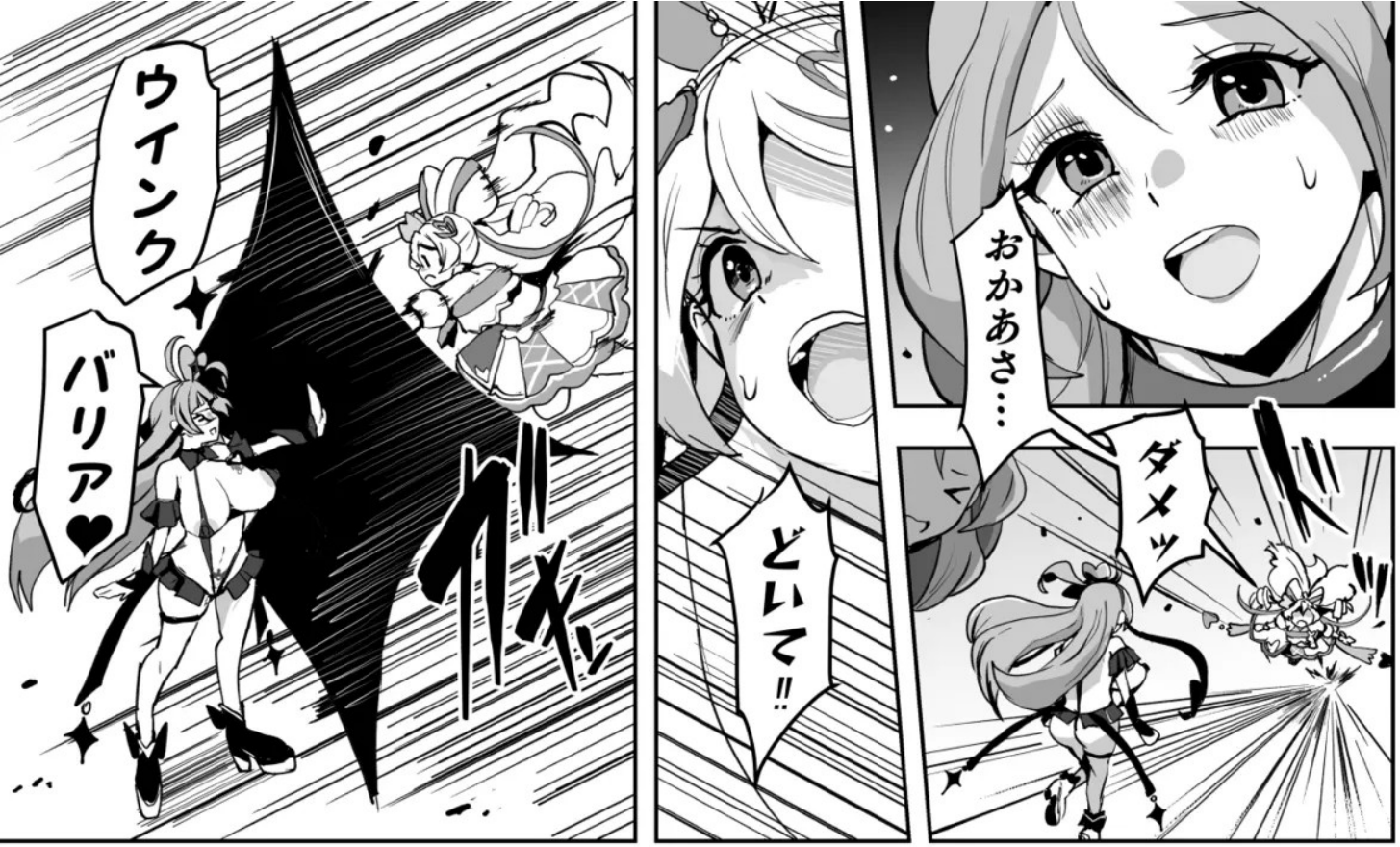
アイドルドスケベ♥
R18
ADULT ONLY
成人向け作品につき
18歳未満閲覧禁止
便器
エロエロ洗脳
ライブ開演だよ♥

はなみちタウン
ガヤガヤ
みんなを放してっ
バッ
あは♥
フフ♥
バカですか？放すわけないじゃないですか♥
邪魔はダメだよ♥

あなた達誰なのなんでこんなこと・・・
あはは♥アイドル♪
本当に私達が誰が分からないんですね♥
キュンキュン
レーザー♥


あ――うん
しぶとい・・・
い・・・いまの・・・・・・
あ・・・


おかあさ…
ダメッ
どいて!!
ウインク
バリア♥

あっ…
えっ
こ…これ
フフ♥
気になる?
私達が誰なのか
……
特別だよ
アイドル♥

これなら
分かるよね♥

隙あり♥
えいっ♥

安心して下さい♥
二人とも
なんで…
うた先輩のお母さんも他の捕まえた牝も♥
みーんなご主人様が立派なエロ豚牝にしてくれますから♥

うたちゃんは私達と一緒♥
ご主人様のために歌う♥
エロエロちんぽセックス大好き♥
ドスケベ洗脳アイドルプリキュアになってもらいます♥

マペニランド
それで前の王様は牝をマペニ族に変えることを禁止にしてたの♥
ヒドイよね こんな素敵なこと♥
ん～好きぃ♥ ご主人様ぁ♥
ブチュ
ズロ♥
うたちゃん♥ みんなでマペニ族に繁栄をもたらしゅ エロアイドルになろ♥
じゅるるる～
じゅるレロ♥
んぺ♥
ベロ♥
な先輩も私も♥
ペニサオ様にマペニ族の牝にしてもらったんですよ♥
マペニの王 ペニサオ様♥私達が全てを捧げるご主人様で♥
ドスケベアイドル プリキュアのプロデューサー♥
こころ
なな ちゃん…
私たちはこの人に永遠の忠誠を誓ったんです♥

お願い
二人とも
目を覚まして
イック♥
ザーメン
イグっ♥
ククク
こころ
これ頼むで？
あは♥
お任せ下さい♥
うた
せんぱ～い♥
ニャ～
ニャ～
これが何だか
分かりますか？
インモラル
リボン♥
ボワァ
先輩をマペニの
女にしてくれる
魔法の
アイテムです
や…やめ
フフ♥
心配しなくても
スグには
変わりません
変わるのは
うた先輩が
真に望んだ時♥
おっ♥
なんか
へんっ♥
ほ!?

でも
体はめちゃくちゃエッチになるからスグイケますよ♥
んおおおおおお
ほぉ
ビクンビクン
これがイクっ♥
イグッ♥
うたちゃんの初アクメエロ可愛い♥
では
この後うた先輩には
マペニでのドスケベアイドル活動に参加してもらいます♥
ベロン
すき
ベロベロ
ちんぽぉ
舐めてるだけでイキそう♥
おひんぽ様♥美味しすぎれす♥
そうすればきっとここの素晴らしさが分かると思うから

私そんな
アイドル活動
いやだ・・・よ
そうですか？
最高ですよ♥
れる
ん♥もちろん
断るのも自由♥
でもこふぇを
見てからでも
遅くないと
思うよ♥

え？
ボワァ
金玉うま♥
スキっ♥
ペロ
ペロ
クク

やっほー♥
うた♥
元気？
ハッ
ハッ
ハッ
ン
!!

ズキューン
キッス
そうだよ♥
うた♪
こっちはね
キッスにリボンが
上手く入らなくて
大変なんだ～
ガシ
ガシ
あッ
早くキッスも
坊ちゃんの
モノになって
欲しいのに・・・
おねえ・さま

よしみんなの
前でハメるぞ
俺のズキューン
はーい♥

キッスも俺のに
なったらズキュキス
公開生種付け
ライブしようぜ！
へへ
ズキ
あん♥それいい♥
絶対やる♥
坊ちゃんと
生パコライブ
しゅる♥孕む♥

坊ちゃんは
ご主人様の
息子さんなの♥
ズキューンは
坊ちゃんが
堕としたんだよ♥
どうしても
欲しいと
せがまれてなぁ
ドビッ
イクッ
ゾクゾク
へっ♥ちんぽ汁
イグっ♥
ん♥ザー汁♥
もったいない♥
あん♥
坊ちゃんは
ご主人様より
ずっと気が短い
んです♥

フフ♥キッスが
あのままなら
きっろ始末され
ちゃうと思うな♥
エロちんぽ様
嗅ぎながらの
ザー汁キス
やばっ♥
ブブッ
ジュボボ
坊ちゃんを
止められるのは
ご主人様らけ・・・

マペニランド
第一ホール
うた！
私のことは
この意味
うた先輩れも
分かりますよね？
んっ!!

すでに会場の準備は整っています
田中さん!?
なんで…
洗脳して奴隷として使っているに決まっているじゃないですか
こんなの常識だよ♪うたちゃん♥
おっ
奴隷になった他の種族のオスは
ちんちんが縮んで交尾できなくなるんです♥
みすぼらしいちんぽ…♥
本来牝と交尾していいのはマペニのオスだけだから合理的だよね♥

ねえ♥
今日のライブもいっぱいシコって下さいね♥
ぼっ
田中さんも……
もう♥田中さんでちゃったからw
あはは♥
大丈夫あのペニサオとかいうやつさえなんとかすればきっと…
私が絶対みんなを助けるんだ

そこから始まったのはライブなんて名ばかり
もっろぉ♪夢中になれりゅねぇ♥
精液♥らへ♥
ハメて
おまんこセックスイエス♥キュンキューン♪
イグゥ
ファンを交えての大乱交H
歌って…
キュンキュンまんこ最高
ドイッ
ドイッ
ウインクでるっ
だすっ
ビュッ
ジュ♥
ジュ♥
ぶっかけて
くっさいちんぽ汁シャワーライブすき♥
ぶぴ
おほ♥
みんなのエロ汁でプリキュアイグっ♥
ドビュッ

新しいプリキュアもエロかわ
ハメられて
その調子だよキュアアイドル♪
ううん♥
中出し…
ぼびゅ
ハッ
ん
オッ
イグッ
その次の日も
イグッイクッ
ほっ
んも
歌って♥腰振ってまんこイクっ♥
ちんぽで
しれっ
次の日もドスケベアイドル活動

みんな♥
トリオドリーム
アクメ♥
いくよー♥
ほぉ♥
ほぉ♥
パヂュ♥
バス♥
バス♥
バヂュ♥
イケー
いーち♥
プリキュア
イケー
イーケ
イーケ
にーい♥
さ・・・
ビク♥
りゃめッ♥
プリキュア
エロアクメ
イグっ♥
ほぉ♥
イグッ♥
ごめん♥
ちんぽなんかに
負けない・・・
もうアイドル
タイミング
合わせて下さい
もう一回
いこ♥
負けない♥

プリキュア
おまんこ中出し
握手会は
こちらです!!
ぬほぉ
ドプ
キュアアイドル
好きだっ
濃いザー汁で
子宮キュンキュン
でした♥
いっぱい
でたね♥
これからも
応援してます
ずっと大好きです
永遠の推しです
ありがと♥
でも大分ちんぽとか
セックスにも
慣れてきたかも♥
ドロ♥

すごく気持ちいいし
まだ流されそうに
なることもあるけど
これなら
私は大丈夫
堕ちたりしない…
フキ♥
わいの番や
よろしく
頼むな
キュア
アイドル
ど
キッ
あ…

一目見てからファンなんや
楽しませてもらうで♪
あれ？待って私…♥
今♥ちんぽ見ただけでまんこイッた？
あ♥はい♥
夢に見たキュアアイドルのまんこ
ちがう♥
これ今までのちんぽと違う…♥
これ入れたらきっと取り返しがつかなくなる
ほじりまくるで
ごめんなさい
まっ…

わぁ～♥
マジか…
アイドル大胆♥
初めて見た
パン
パン
パン

あれお持ち帰りOKのだいしゅきホールドキスだぜ
おもちかえり?
ギュ――ッ
なんかよく分からないけどこの人しゅき～♥
もっと中出しして♥精子欲しい～♥
ザワ
ぢゅるっ♡
ドク
ドク
ザワ
羨ましいな～

嬉しいでキュアアイドルたっぷり可愛がったる
ホテル行くで
うん♥
べろ」
べろ」

せっかちやなw
風呂とか
ええんか？
いい♥
早くセックス
しよ♥
ちんぽ♡
うっま♡
ベロ♡
ズリュ

ほんとキュアまんこ
具合ええの
腰がとまらんわ
やっぱり全然違う♥
ちんぽ気持ちいっ♥
最高♥おじさんの
ちんぽしゃいこう♥
んぉ♡
おっほ♡
イク♡

激しくするで!!
おおおお

こっちの姿も
可愛ええで
うたちゃん
まだまだ寝かせ
へんからな
嬉しい♥
私ももっと
もっとしたい♥
おじさんとエッチ
しまくりたい♥
いっぱいイキたい♥
ドスケベ好き♥
イっ♥
あっ♥
ぐちょ
ぐちょ
ポン

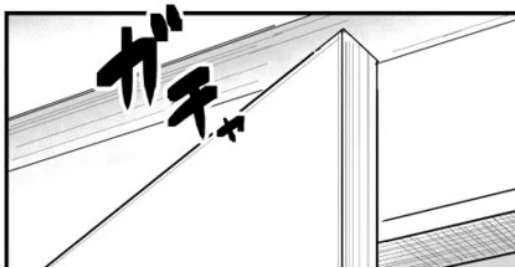
ハァ♥
ハァ♥
ハァ♥
ドロ♥
さいこう♥

どやケツ穴も
ええやろ?
うたちゃん
いいッ♥
これハマるッ
ちゅき♥
ほひ♥
レゅごイク♥
ケツ好き
イクイクイグ♥
パン
パン
パン
パン
ビクン
ビクン

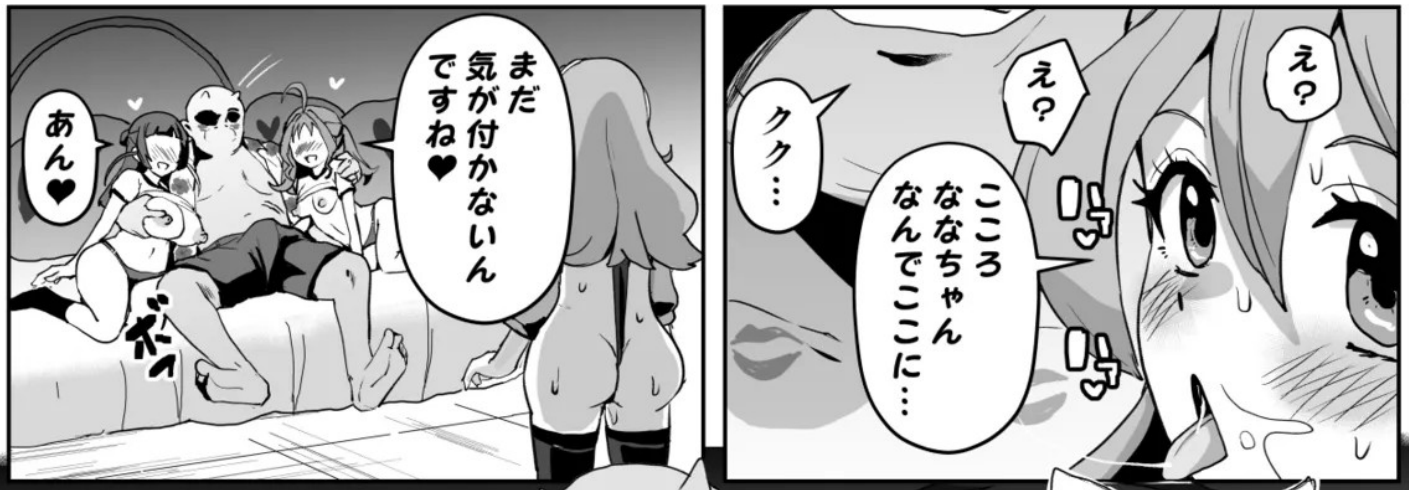
おじさんのセックス凄すぎて私の全身キラッキランラ～ン♥
おじさん好き♥大好き♥
そうかそうかけどまだやでうたちゃん
これから行くとこでもっとキラッキランランにしたる

帰ったで
ん♥
ん♥
好き♥
お帰りなさいませ♥

本当♥やった♥行く～♥
どこでも行く～♥


ガチャ

あはは うた先輩が
完全にメロメロに
なってます♥
んフー♥
ご主人様の
ちんぽ♥
気持ちよかった？
うたちゃん♥
カパン
トロー♥

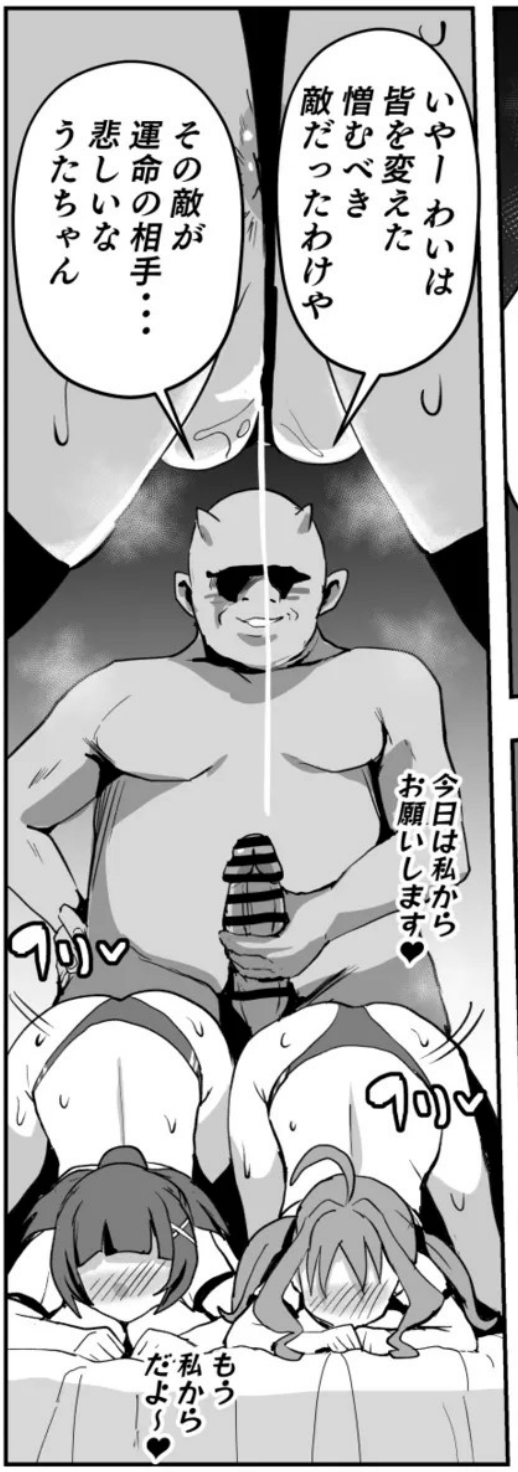

え？
え？
ここころ
ななちゃん
なんでここに…
クク…
まだ
気が付かないん
ですね♥
あん♥

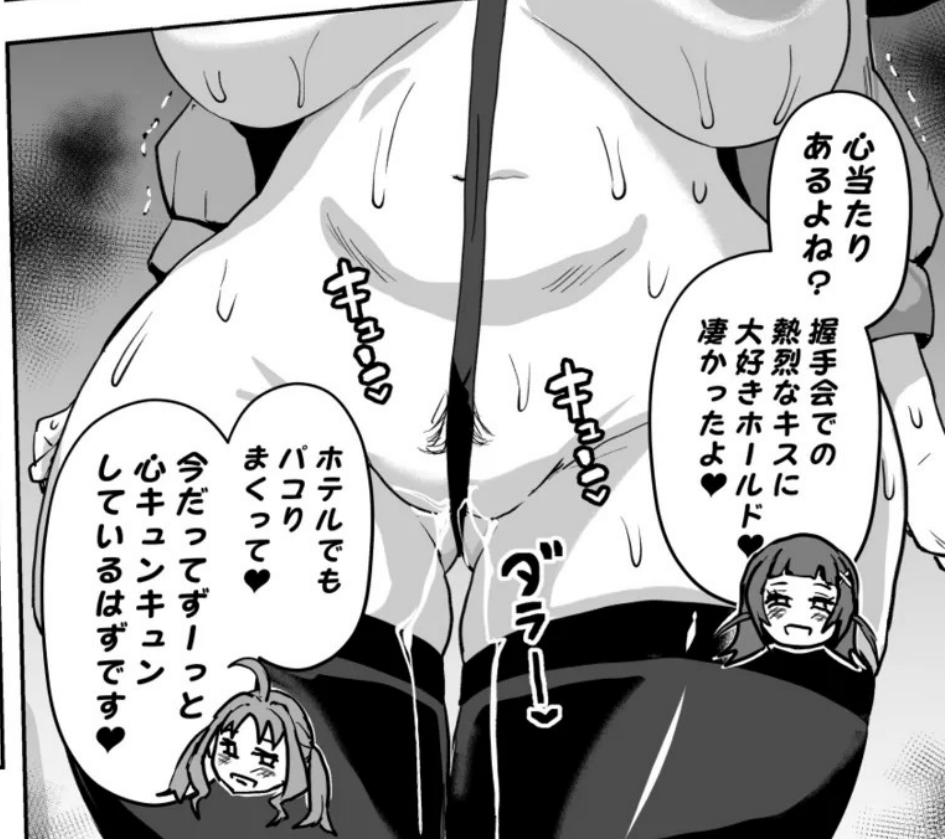
前会ったときは
これつけとった
からな
こいつは
着けとると
他人には誰か判別
できなくなるんや
便利やろ？
スキ♥
ベロ♥
ぺろ♥
なで♥
ちゅ♥

はい♥
同じアイドル
プリキュア
れすから♥

れもやっぱり
うたちゃんも
ご主人様
らったね♥
ん♥
愛してます♥
ん♥

な…に?
どういうこと?
うた先輩の
中にある
インモラルリボン
それは運命の
ご主人様を
選ぶんです♥


いやーわいは
皆を変えた
憎むべき
敵だったわけや
その敵が
運命の相手・・・
悲しいな
うたちゃん
今日は私から
お願いします♥
もう
私から
だよ~♥


心当たり
あるよね?
握手会での
熱烈なキスに
大好きホールド♥
凄かったよ♥
ホテルでも
パコり
まくって♥
今だってずーっと
心キュンキュン
しているはずです♥

な先輩
お先に♥おっ♥
失礼します♥
ほぇ♡
ちんぽ♡
んぉ♡
むー
こころの
まん肉はいつも
キュウキュウ
しまるわ♪
おじさんは敵・・・

ん♥
好きなの♥
ご主人様が
好きすぎて
おまんこ
切ないよ～♥
けど運命の
相手・・・
へちょ♡
へちょ♡
ほぉ♡
よしよし
ななも可愛いの～
すぐズッコン
バッコン ハメたる
まんこ♥
イクッ♥
イクッ♥
ブッ
ブッ
運命の
ご主人様・・・♥
ラブラブ
ちんぽ
イクッ♥
敵・・・
ぐぐぐ
イグッ♡
んほ♡

てき♥
フーッ♥
運命のご主人様♥
好き♥
おじさんは敵だからダメ…
敵…でもご主人様♥
ご主人様♥
大好きなご主人様♥
ズボ♥
ズボ♥
あは♥
ぐちょ♥
ぐちょ♥
ほッ♥
おッ♥
そいこう♥
イクッ♥
ちんぽ欲しくてたまらない牝顔してますね♥先輩♥
でもダメですよ♪
ご主人様♥ペニサオ様はうたちゃんの敵♥敵とはセックスできないの♥
そうやな敵とはできんなw

ちんぽ♥
ちんぽ♥
ちんぽ♥
だからそんな顔してもダメですって♥
そこでずーっろ
ベロン♥
私たちがラブラブ交尾しているとこ見ていて下さい♥

好きご主人様イクっ♥
まだまだやりまくるで
バチュ
バチュ
うた先輩♥みれ♥イクの止まらない♥
ご主人様大好き♥イクイクイク
ちんぽラブセックスイクッ♥
ほっ
フッ
フッ
スキ♥

うたちゃんエロバナナ美味しいよ♥
嫌だ…
うっま♥
エロバナナちんぽしゅき♥
そそるの♪わい好みの下品なええ女になったわ
嬉しい♥もっとご主人様好みの牝になりますぅ♥
ベロベロベロ♥
いや…
ガポ♥
ガポ♥

やめて
ガク
ガク
やめろ
いや
いやいやいやいやいやいやっ
きたか
ペロン
あは♥

もう
見たくない

おじさんと二人がハメてるところなんか見たくないっ
ペニサオ様は私のご主人様なんだからーー

ククッ…
綺麗な姿や
よう
似合っとる
これが
新しい私♥
すっごく
キラッキ
ランラン♥
ご主人様のため
ぜーんぶ
奪って染めて
洗脳する♥
ハメてにっこり
キュアアイドル♥
愛してます♥
ヒクン
ヒクン
んほ♥
いきなりぃ♥
うれしっ♥
最高ッスキ♥
ほ♥
パン
パン
パン
パン
キュアまんこ
ほじり
たおしたるっ
良かった
ですね♥
また
一緒だよ♥
坊ちゃん～♥
ちゅぱ♥
ん♥
ちゅぱ♥
ベロ♥

坊ちゃんのデカデカひんぽウィンナーやっば♥
いいぞぷりん♪
中のあつあつ特濃エロ汁も飲みたい♥だひれっ♥
やめてお姉さま
デカケツにエロまんこ最高だな♪
正気に戻って…
キッスこそいい加減にしたほうがいいよ♥
坊ちゃんには勝てないんだから♥
ザーメンきたっ♥エロザー汁イクっ♥
そうだぞ
いつまでもいつまでもいい加減にしろよな
プリキュアは全員堕ちるんだキュアアイドルもお前も!!
ふざけないで私もうたも堕ちたりしない

強がんなってそれが入らなくても影響で体はエロくなってんだ
俺のちんぽ欲しいだろ♪
バカ言わないでそんなことない
なら勝負しようぜセックス勝負
お前が勝てば何でも言うこと聞いてやるよ
負けたら俺のな
ぐり
ぐり
言ったわねいいわ受けて立ってあげる
へへ～んよし
ハァ♡
ハァ♡

じゃあベッド行こうぜ
スルル
見てろよ即堕ちさせてやる♪

フッ
？
わっ

くっそ
汚ねえぞ
キッス
助けろ
ズキューン
坊ちゃん!!
お前を人質に
お姉さま達を
元に戻す
終わりよ
クソガキ
だーめ♥
させないよ
あっ
キッス♥
ドタッ
ドン
えっ
アイドルー
グータッチ
ドドド

へへ
助かったぜ
キュア
アイドル♪
やっとパパの
牝になれたんだな
うん♥
ホンマ様子
見に来て
良かったで
久しぶりの
ペニサオ様の
ちんぽぉ♥
気持ちいい~♥
これからは
俺もハメまくって
イかせまくって
やるからな
だすぞっ
分かったぁ♥
あっっ♥
エロ
ぼっちゃん汁
イクっ♥

んっ…
くっ…衝撃で
あのリボンが
押し込まれた…
アイドル……
あぐ
ぐら
体があつい…
熱くて
たまらない…
あは♥
まだやる気だ
キッス♥
でも…
しつけーな
うんいいよ
やろ♥

ぶちのめして
あげる♥
おしまいだね♥
キッス♥
坊ちゃん♥
ちんぽでとどめ♥
さしてあげて
下さい♥
エロちんぽ
カッコよくて
キュンキュン
します♥
ガチガチの
オス全開で
素敵…♥
へへ

してやるぜ
俺のモノにな
キュア
キッス
ペチ
ペチ
ちんぺち♥
やめっ♥
ほっ♥
おねえ
アイド…
おっ♥
じゅるん
ぢゅるん
インモラル
リボンも
反応してるね♥
運命のちんぽ
キラッキ
ランランだから
楽しんで♥
へへん
ぐちゅ
ねえ
待って
待っへ♥
約束通りの
セックス勝負
だな
負けねえぞw
ドゴォン
ほぎぃっ♥
お願いします♥
待ってください♥
ちんぽ 待っ…

レロ
ぬぢゅ
ちゅる
フーン
レる
フーン
ポン
フーッ
んぐんぐ
なんだもう負けでいいのか？キッス
弱えーなw
運命の出会いで
私の中に芽生える確かな思い♥それは愛♥
牝なんだから仕方ないでしょ♥
はー♥好き♥
へへ好きかじゃあもっと好きにさせてやるぜ
ズキューンよりもな
べろ
れろ
チロ
チロ
チロ
ムニュ
ムニュ
いいわ♥やってみせへ♥

ん♥ゆびほじいいっ♥
お姉さま見て♥私のスケベ見て♥
ちんぽいい♥イクっ♥
ほぉ
ぐぉん
ゾクン
ゾクン
肉欲と絆♥
堕ちた皆と感じる
ほじ
ほじ
パン
パン
パン

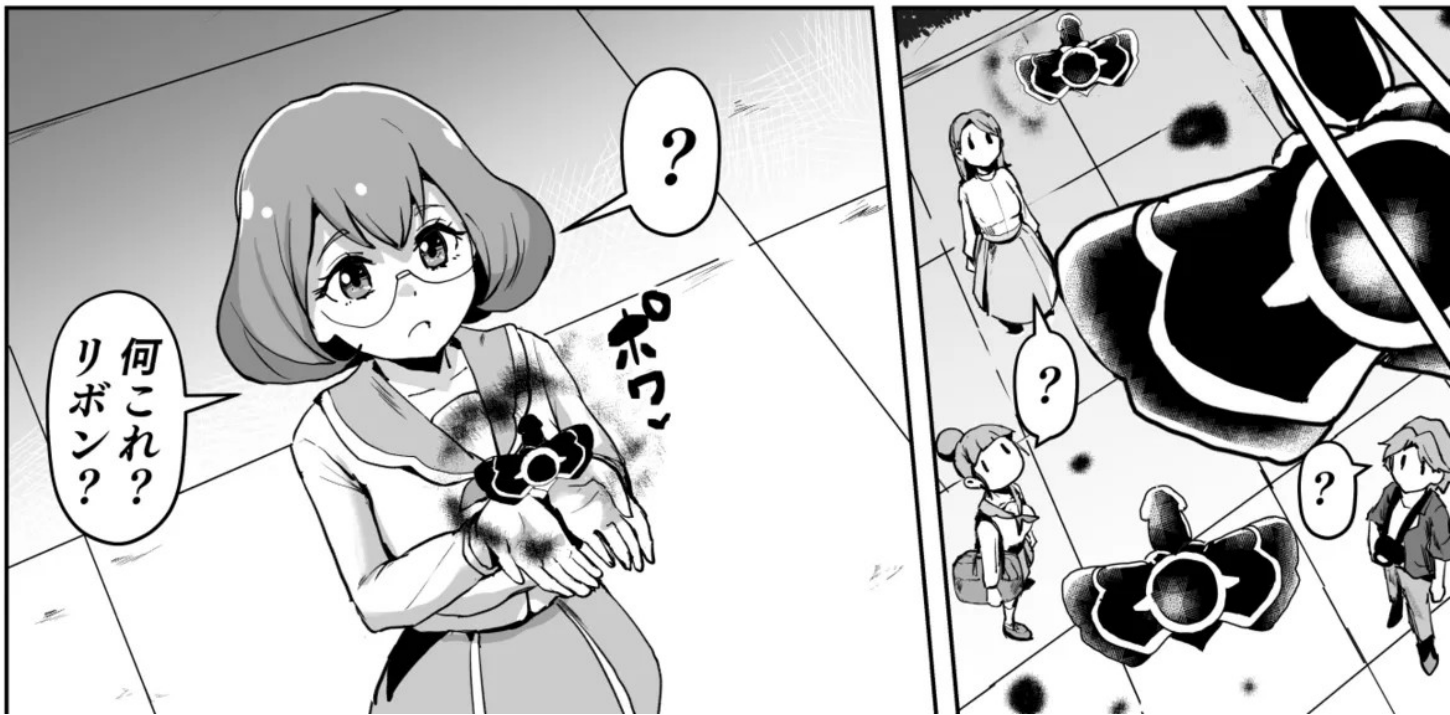
必死に腰振って
ちんぽ汁っ♥
ほぉ
ほぉ
だしてだして♥好きっ♥
皆を追いかけるのは牝の私
パイ
パイ
パイ
パイ
坊ちゃんちくびエッチです♥
いいぞ〜めろん♪

甘く心地よい
あなたへの気持ち
もう他に何も
いらない♥
フーッ
フーッ
でそ
よし
ぶっかけて
やるから
舌だせ
ガポン
ゴポン
はひ♥
おひんぽ
汁ぅ♥
ブピュー
何もかも
捧げる愛が
ビクン
あっ♥
へっ♥
好き♥
イクっ♥
私の全てを
変えるのおおお♥
おほ♡
好き好き
好きすき♥
きたか
やったぜ♪
大好きメロ♥
私の
ご主人様——♥

へへ
レロ♥
ん♥
チュッ
チュッ
ほらいつまでも舐めてないで
皆に見せてやれよ俺のキッスの姿
ぺろ〜
ぺろ〜
はい♥坊ちゃん♥私のご主人様♥
ククク
すっごくエッチ…♥
キッス♥やったね♥
良かった♥
んもっもももっもっ
じゅる〜
ご主人様のためハートをメロっとドスケベ洗脳♥
ちんぽに口づけキュアキッス♥
お姉さまみんなよろしくね♥
へっ
へっ

フッ♥
お姉さまと
並んでしゃぶる
ちんぽおいひ♥
うまぁ
ひんほ
これで
アイドル
プリキュア
全員やな
ぱぁん
パパあれもう
出来てんだろ？
やろうぜ
ぱぁん

量産型の
ことか…
そうやな
はじめよか
イっ
じゅろぉ
も
ちんほ
ぐろぉ
ほっ
へへ
楽しみだぜ
ん
ボ


？
？
？
ポワ
何これ？
リボン？

!!
ブオン
みんなー♥
べろ～
アイドル
プリキュア♥
ドスケベ
洗脳ライブ
開演だよ♥
一番手は
私♥
パチュン
パチュン
ほっお♥
おまんこ
とまらない♥
急接近♥
ほッ
ぢんぽ
ご主人様
しゅきっ♥
アイドル
プリキュア♥
エロエロ
だよ～♥
ハッ
ハッ
イッグッ
トロン

次は私♥
聞いて下さい♥
私のオホ声♥
ぐちょ
ぐちょ
すごい
ウインクも♥
フーッ♥
フーッ♥
ほぉ
ドクンッ
ほぉおおお♥
オホっ♥
ケツっ♥
ビクン
あは♥
プリキュア♥
私変わった…
マペニ族の
牝に…なれたよ♥
ビクン
すっごく
キラッキ
ランラン♥
ヘー
ここが
プリキュアの
町か…
スケベな牝
いっぱいいる
かな？
あっ♥

フッ来た来たマジいきなり来たぜ牝
ズロ〜
ちんぽ♥
私♥今マペニの牝になったところなんです♥
お前ずりーぞ
オス様好き♥
そっかそっかこれからよろしくな孕め
ビク〜
ビク〜
ドロ〜
パン♥
パン♥
パン♥
はひぃ♥おほぉ♥

こうしてはなみちタウンのみーんな洗脳完了♥
毎日ヤリまくってキラッキランラーン♥
スキ♥
似合ってる？
似合う♥似合う♥

この前正式にマペニの奴隷都市になったから
ますます交流も盛んになったよね♥
喫茶
グリッター
cafe glitter
はい♥いたるところでスケベしまくりで
おまんこキュンキュンしてます♥
ご主人様♥しゅき♥ボテまんこもっとほじって♥
ほッ
うたと一緒にご主人様とボテ腹セックス最高ー♥
ズグ
ズグ
ええのー
母娘孕ませて親子丼たまらんわー
パン
パン
だすで
ドビュッ
ボテまんこイクぅ♥
ふー次はうたのボテまんこの番や
キラッキランラン♥お願いしましゅぅ♥
ペロ♥
ガクン
ガクン

そろそろコーヒータイムにしよか
うちの娘ほんとスケベ♥
ん♥元旦那が奥でシコってるので入れさせましゅ♥
ほっイクイクイク♥
ちんぽイクっっ♥
イグッ♥
ドロ
パン
パンッ♥
カラン
カラン
見て見てお母さんお姉ちゃん♥
私やっとマペニの牝になれたんだよ♥
ぶるっ
良かったわねはもり♥体もエッチになって…♥
おめでと♥
ドロ
人間やめてマペニ牝に変われば体も完全に牝のそれに変わる
小さかったお前でももう問題なくヤリまくれるぞ
やった♥
ん――♥
ぢゅる」
中々変わらねえから苦労したぜ！

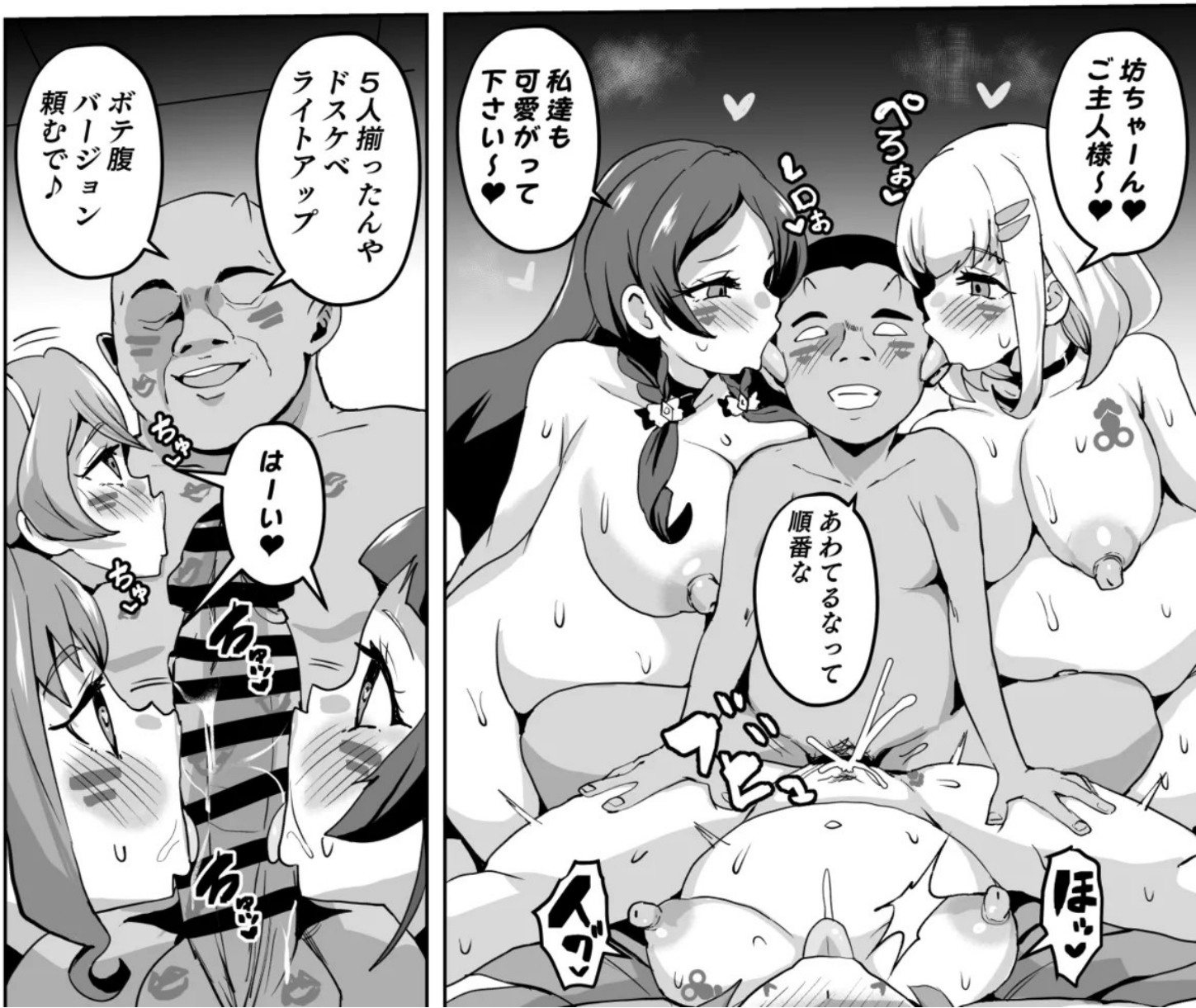
あん♥坊ちゃん♥力強いぃ♥
もっと♥揉みまくって下さいぃ♥
必死にしゃぶりつきやがって
このスケベは血筋だなw間違いねーわw
んべろ♥
ズロ♥
おひんひん♥
れろ♥
ほっ
ビクッ♥
レロ♥

ほら飲めはもり
ゾクン
ゾクン
んもぉお♥おひんひんじるぅ♥
こんにちは♥
お邪魔します♥
わらんわらん
あっ♥はもりちゃん牝に変わったんだ♥
おお!!お前ら!
しゃきーん

マジボテ腹祭りじゃん♪
パパ流石だぜ分かってる!!
じゃる
あんっ
私達♥母娘の発情孕みまんこいっぱい味わって下さい♥
イクゥン
はげしっ♥坊ちゃんちんぽ♥
ガチュ
ガチュ
奥届くっ♥おっほ♥

そうやろそうやろ♪ 今日はボテハーレム堪能するで
あん♥ご主人様ちんぽあつい♥いっぱいザー汁ヌいてください♥
ヘッ
赤ちゃんビクって♥
これがママを孕ませたパパのおちんぽだよ♥

きたよー♥
みんな
カラン
カラン
あっ
ボテ腹
テラちゃん
かわいい♥
おなかデカく
なったなー
テラ
うん♥
赤ちゃんが
パパに
会いたいって♥
私も♥
だから
来ちゃった♥
好き
ご主人様♥
すき
イク♥
パン
パン
パン


坊ちゃーん♥
ご主人様～♥
私達も
可愛がって
下さい～♥
ぺろぉ
レロぁ
あわてるなって
順番な
ほぉ♥
イグ
5人揃ったんや
ドスケベ
ライトアップ
ボテ腹
バージョン
頼むで♪
はーい♥
ちゅ
ちゅ
ぐぐっ
ぐぐっ

プリキュア
ドスケベライトアップ♥
ご主人様に永遠に絶対の忠誠を♥
ウィーアー♥ドスケベ洗脳アイドルプリキュア♥

私達プリキュアがご主人様のため♥
これからもこの世界をもーっともーっと♥
おちんぽ様♥
ハメてください♥
キラッキランランにしていきます♥
おわり♥

キミの〇〇〇メスドルケツキュア♪
～ケツ振りで再チャレンジ牝豚アイドル♪～

日高久志

咲良うたが「キラッキランラン」と〝言えなくなって〟3ヶ月。
アイドルプリキュアの控室はまるでお通夜のような暗い雰囲気だった。
こころは、グスグスとベソをかきながら、ななに励まされている。
ぷりんとめろんはおろおろとして、とてもじゃないが声をかけられない。
うたは絞り出すように「みんな、ごめん……」と言うしかなかった。
立ち上がり両方の拳を握りしめるうたの背後に、大きな人影が迫った。

「ひゃうぅっ!?……うううっ……!!
や、やめてくださいっ……!」

「はあぁ～!?
元気ねえから、この俺が景気付けてやってるのにっ!
やめろだと!?ナメやがってっ!」

「くひぃぃぃっ……!!
んあああっ……!!」

男はうたのお尻を背後から遠慮なく揉みしだいていた。
しかもスカートの中に手を入れているだけでなく、ショーツにまで潜り込ませている。
その大きな掌は、うたの尻たぶを鷲掴みにしてもまだ足りないほどで、うたは悶えるのを耐えるしかなかった。

「これ以上、うたに……っ!!
酷いことをしないでっ!!」

ぷりんが思わず男に詰め寄った。
男は気にせず、ぷりんのお尻にも手を伸ばす。

「なんだ!?
お前も揉んで欲しいのか?
順番も守れないようじゃ、レッスンが上手くいくか疑問だぞぉっ～?」

「ううぅっ……!!そ、そんな訳じゃっ……
やぁんっ♪だ、だめぇぇっ……♪」

うたと違って、尻を揉まれたぷりんの声には、艶やかなものが交じっていた。

「お、お姉様っ……!」

今度はめろんが立ち上がる。
その時だった。
扉を開けて、3人の女が入ってきたのは。

「ご主人様ぁっ……♪
んんふふっ❤
娘のケツの揉み心地はいかがですか～?
私よりは肉つきがイマイチでしょうけど、プリプリ具合はやっぱり若さって感じでしょう?」

「ケツドルママキュアの地元凱旋ライブ♪
大盛況でした❤
ああんっ♪……やっぱりケツ振りは偉大です。
全てはご主人様のご指導のおかげ❤」

「今日こそは……
もちろんこの子達もいい加減諦めて♪
ご主人様に服従し、ケツ振りアイドルになることを誓うのでしょう?
ふふふっ♪楽しみだわ……❤」

咲良音、蒼風睦美、紫雨愛。
うた達の母親が揃いも揃って際どい漆黒の魔女ような衣装に身を包んでいた。
それは紛れもなく、ダークイーネの着ていた衣装に酷似している。
違うのは、お尻の部分が強調されてクッキリムッチリと露わになるようにされていること。
そしてむき出しになった尻たぶには、大きく〝豚〟と丸字の中に刻印されていた。

「ははは!来たかっ～!!
素晴らしいステージだったぜっ!!
娘達のつまらねぇパフォーマンスがブーイングに終わったところで、入れ替わり始まったお前達のケツ振りの大歓声!
あまりのギャップに腹抱えて笑ったぜ～っ!
やっぱ時代が求めてんのは、ケツ振りだってなっ!!」

男が愉快そうに高笑いしていた。

男の名はマイルズ。
大きな身体と黒い肌に仰々しい入れ墨を入れている。
アイドルプリキュアとはまったく相容れない類の人間だ。
そんな男が我が物顔で、うたのお尻を揉んでいる。
人気のなくなったアイドルプリキュアを助ける名目で、母親達が彼にアイドルプリキュアのリスタートプロデュースを頼んだからだ。
それだけでなく、ケツドルママキュアとして、３人でデビューまでさせてしまった。
彼女達はマン筋やケツ穴まで透けて見える際どい衣装でお尻を振る、今一番ＨＯＴなアイドルだ。
もうアイドルの世界はかつてうた達が憧れたような綺羅びやかなものではなくなった。
マイルズが業界に入ってきて以来、色鮮やかで可愛いコスチュームは敬遠され、漆黒の際どいエロ衣装が持て囃されるようになった。
しかもその姿は狙ったかのように、ダークイーネを模している。
対局にあるアイドルプリキュアが舞台に上るだけで、会場が白けるばかりかブーイングの嵐になっている。
「お前あのババアに偉そうに言ったんだよなぁ～？
闇も光もそのままで受け入れるってな。一緒にいればキラッキランランとか抜かして。
あのババアをそれで誑かしたんだろ？」
マイルズがうたの耳元に囁く。
ダークイーネとの決戦の時。
彼女の冷たい心の溶かしたうたの言葉。
それをこれ見よがしにマイルズは嘲笑う。
「光がぶっ飛んで闇塗れになったって考えは同じだろ？
全部、受け入れろよ。
俺のプロデュースに間違いはねぇ。
母親どもと同じ衣装を着て、同じようにケツを振って媚びるんだっ！！
そしたらよぉ～！くくくっ！！
またアイドルに戻れるぜっ～！」
「う、うた先輩をこれ以上虐めないでくださいっ！」
今度はこころが声を絞り出す。
だがすぐさま母親の愛が駆け寄った。
「もう貴方がキュンキュンしないとか言いながら、ご主人様考案の衣装に袖を通さないから先輩が困っているんでしょ？
お手本を見せてあげなきゃ。お母さんみたいに♪
でも……睦美のところのお嬢さんはちゃんと〝言うこと〟を聞いてくれたみたいだけど」
「えっ……！？」
未亡人で自分の苦労を顔に出さず子供をいつも励ましていた愛が、邪悪に微笑む。
ご主人様であるマイルズがどうすれば一番喜ぶかを心得ているのだ。
そして先手を取られた蒼風睦美は苦々しく顔を歪めたが、すぐに気を取り直して、娘の両肩に手を置いた。
「そうそう♪
可愛かったわ。鏡の前でお尻フリフリ練習したのよね。
頬を赤くして……初々しい姿に、お母さんも一緒にお尻を打ち合わせちゃったけど。
とにかく素敵だった♪
どう、ここでお披露目してみる？皆の前で」
「えっ……そんなこと……」
自然になにに皆の視線が向く。
ななは顔を伏せて何も言えなくなった。
「そうだった！そうだった！！
ななは心を開いてくれていたなぁ～！
はははっ！母親と並んでするケツ振りのムービーを見たよ。
素晴らしいケツ振りだった。
君が一番先に〝目覚めて〟くれそうだ。
期待しているぞ」
マイルズはなにの後ろに回り込むと、彼女の肩を親しげに揉んだ。
「い……いたい……」
身をすくませるなにに、睦美は顔を顰めた。

「もぉ！違うでしょ！
ご主人様に揉んで頂いているんだから、お尻を振って感謝しないと！
座ってなんて居られないはずよ。
さあ、立ちなさい。
そしてぇ……うふぅっ♪ご主人様に媚びなさい❤」

娘に怒りをぶつけながら、睦美は自分がクネクネと腰を動かしお尻を振っていた。
パシャパシャッとカメラの撮影音が響く。

「さすがですわ、陸美様❤
ああんっ♪デカ尻に豚の文字が揺れてぇ……♪
こんな間近で見れて撮影出来るなんて光栄ですわぁっ❤はぁんっ♪」

「わ、わたし達もお招き頂きありがとうございます♪
うたちゃん達の間抜け面も写真に撮っておきますね。
あっ……キュアアイドルだったっけ♪」

ママキュア達が入って来た時に後ろに待機していた女子がゾロゾロとけっして広くない部屋に押し寄せる。
その先頭は甲斐ちよだ。
生徒会長としてアイドルプリキュア研究会を応援することを決めた彼女だったが、この数ヶ月ですっかり心変わりしていた。

それはマイルズが視察と称して、はなみち中学校に来てからだ。
アイドルプリキュア研究会の初期会員で、うたのクラスメイトの東中みことも同じだ。
ちよや他の研究会の会員と「応援の仕方を見直す」と個室に連れ込まれてから全てが変わってしまった。

みことは、うた達以外の全員でアイドルプリキュア研究会を抜けることを決め、すぐに「ケツ振りアイドル研究会」を発足させたのだ。
勿論、生徒会長のバックアップ……もとい彼女も参加する形でだ。

今はケツドルママキュアの卑猥な写真や応援ポスターを、学校中に貼ることを活動内容にしている有様だった。

「み、みこと先輩にちよさん！
本当に目を覚ましてくださいっ！
こ、こんなの……ひどいですよ……！」

こころが涙目で二人や、元会員達を見渡す。
だがその誰もが、必死なこころを鼻で笑い、見下していた。

「ふふっ♪くだらない感傷よ。
ご主人様の為にケツを振って、ご主人様の為に応援をする……
それ以外はゴミですわ❤
こころさんも学校でいっぱいケツ穴ほじって気付いたでしょ？
気持ちいいってアヘってたじゃない❤」

「そうね、うたちゃん達に秘密の女子トイレ特訓をここでお披露目しましょうよ♪
ほら、こんなにぶっといアナルバイブを突っ込めるようになったんだって❤
今もわたしがあげたバイブを挿れてきてるんでしょ？
スカートめくって、お尻フリフリしよ❤」

邪悪な笑みを浮かべて、ちよとみことがこころを嘲笑う。
こころは狼狽して、机に乗り出した。

「そ、それは言わない約束だったはずです！
や、やめてください！ま、まだうた先輩達は何も。
しきゅぅっ♪な、なんでっ……！
あくぅっ❤しゅいっちがぁ、ひゃいってぇっ♪」

ブブブブ……

と大きな機械音が響くと同時に、こころが悶え出した。
立っていられないぐらいに腰をモジモジと動かしている。

「実は遠隔操作が出来るように仕込んであったの♪
いつでもこころを虐められるように❤
でもこの後、アナニーするつもりだったんでしょ？
手間を省いてあげたわ❤」

「うんうん。こころちゃんってば、ご主人様の御姿を見ただけでお尻をモゾモゾとさせてましたから❤
アナルバイブのスイッチを入れたくて仕方ないって感じで」

「ち、ちがいましゅぅぅっ♪
んひぃぃぃっ❤
と、止めてくだしゃいぃぃっ……じゃないとぉ♪
わたしぃぃっ……❤」

「盛大に潮を吹いてメスイキしちまうか？

お前の下品なイキ顔は傑作だから、コイツラに生で披露するのは最高だと思うぜ！
うただって見たいだろぉ～？」

マイルズが高笑いしながら、今度はまたうたの後ろに歩み寄った。
うたがビクッと怯える。

だがそんなうたを素通りして、マイルズはめろんとぷりんの間にその大きな身体を入れ込んだ。
二人は迷惑そうに椅子を引きずってスペースを開けようとする。

「おいおい、邪険にするな。
二人も重大発表があるだろ？
その為に、みことやちよを呼んだんだからよ～」

ぷりんはハッと気付いたように、隣のうたを見る。
不安げな視線。
この数ヶ月、裏切られ続けた彼女は怯えているのだ。

（わ、わたしが……うたを守らないとプリっ。
その為には……）

「わたし……めろんは……
お姉様と共に、アイドルプリキュアと兼任する形で、新しいアイドルグループ……
マイルズ様の作った……花咲くケツ穴ミチミチ系アイドル、ハメキュアに参加することになりました。
アイドルプリキュアの活動を疎かにするつもりはありません。
ですが……あうぅぅっ♪い、いきなりぃっ❤
そこ弱い……メ、メロっ❤」

めろんが話している最中だというのに、構わずマイルズは彼女の首元から腕を突っ込んでおっぱいを弄った。
同様にぷりんのおっぱいも揉みしだく。
服の上からでも、マイルズがその太い指で乳首を転がしているのが分かる。

「ふ、二人が……
ハメキュア……！？」

うたの驚愕がぷりんにも手に取るように分かった。
ここ数日、大々的にマイルズが宣伝していた……
ママキュアを超える超下品系アイドルとして予告していたグループだ。
敢えてケツ穴を晒すことで放送コードや、動画共有サービスのセンシティブに風穴を開けると宣言し、話題になっていたからだ。

アイドルプリキュアとは真逆すぎるコンセプトを突き詰めたグループにめろんとぷりんが加入する。
それは裏切り以外の何者でもない。

「ピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネの名前も考えてやらねえとな。
まあ、安直にひかり、はさみ、いいねでいいかぁ？
ぎゃははは！
お前らキラキランドとクラクランドの繋ぐアイドルグループだから、責任重大だぞぉっ！」

机の上に、みことが持ってきていた資料を広げる。
そこにはすでにお尻が丸出しな格好をしためろんとぷりん。
そして人間態になったピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネが自分の尻たぶを両手で拡げ、高く掲げる無様な姿で写真に映っていた。

「嘘……だよね……」

うたが震えている。
ぷりんはすぐにでも抱きしめて慰めてあげたい。
でもおっぱいを鷲掴みにされていて、それどころじゃなかった。

「アイドルプリキュアも俺の指導を受け入れて、やっと再始動って感じだな。
だがはな……お前は本当に出遅れてるぞ。
何か出来ることを考えたか？
ここで皆を前に発表しろ！」

「……」

うたにはマイルズから、宿題が出されていた。
今の過激なアイドル業界に沿うコンセプトで、新しいアイドルプリキュア案を考えろと。
うたは、もっとキラッキランラン出来る、可愛らしい衣装を必死で描き続けていた。

例え、流行に乗れなくてもそれが、うたがしたいアイドルだからだ。
そしてマイルズがどう言おうと、なな、こころ、ぷりん、まろんの４人なら受け入れてくれると思っていた。
クシャッと机の下で、プリキュア案が描かれた紙を握りしめながら、うたは大粒の涙を流す。

「う、うたっ……！
くぅぅっ♪マイルズ様っ！
離して……ど、どうかぁ……ああんっ❤」

「お姉様もわたしも……
逆らえない……あふぅぅっ……♪
この人からは……❤」

「うたにまで酷いことばかりぃぃっ……
も、もうやめてっ。
うたがケツ穴拡げてるところなんてぇ……♪
んんっ❤見たくないのにぃ……」

「うた先輩ぃぃぃっ♪
みたいでしゅぅぅっ❤考えてきたのぉぉっ……
んんほぉぉぉっ♪ケチュ穴ぁぁぁっ……❤」

ぷりん、めろん、なな、こころがそれぞれに悶える。
全員がうたの事を思いながら、マイルズの呪縛から逃れられずにいる。

うたにも分かっていた。
〝自分がどうすればいいか〟

考えるも何も、マイルズとお母さんから〝答え〟を教えて貰っていたからだ。
でもそんなこと出来ない……

絶対、無理。
イヤ、イヤ、イヤ、イヤ、イヤッ……

「うたっ!!」

お母さんが心配して叫ぶ声が聞こえる。
その声色はいつもの優しいお母さんのものだ。

涙に揺れた視界が歪む。
うたは椅子から崩れるように倒れ込んだ。
そして地面に頭を打つ前に優しく抱き抱えられる。
その手がカイトさんのものなら、救われたかも知れない。
大きく暖かい……いつもお尻を弄ってくるその手。
天井とマイルズの下品な笑顔に絶望しながら、うたは意識を失った……

――――――

再び目を覚ました時は、よく知っている天井の下だった。
制服は脱がされ、ちゃんとパジャマを着ていた。
お母さんが着替えさせてくれたみたいだ。

「んんっ……」

指の先がネットリと濡れている。
目の前で指を開くと、月明かりに照らされてツーと糸を引いた。

「わたし……また……」

うたはフラフラと立ち上がった。
上着は着ているが、うたは下半身に何も羽織っていない。
お尻をむき出しのまま、部屋から出てリビングに向かう。

喉が乾いた。
時計は見ていないが、まだ深夜でもないのに咲良家は静かだった。
ただリビングからテレビの音が漏れ聞こえている。

リビングに入ると妹のはもりが、ペンライト片手にはしゃいでいた。

「お姉ちゃん♪お母さん達のライブが始まるよ~♪
早く早く~❤」

はもりがうたに、ペンライトを渡してくる。
これからテレビ越しに応援するのだという。

はもりもお尻が丸出しだ。
その可愛いお尻をフリフリとして、ライブの開始を今か今かと待ちわびている。

（わ、わたしも、こ、こんなふうだったのかな）

荒んだうたの心に、はもりの純粋さが優しく響く。

だが直後に始まったのは、見るも悍ましい光景だった。
スポットライトに照らされて、５つ並ぶデカ尻がひしめき合っていた。
それをドアップで映す。
両手で拡げた尻たぶのせいで、それぞれの菊門がまる見えになっている。

「なに……これっ……」

「では花咲くケツ穴ミチミチ系アイドル、ハメキュアのデビュー曲!!
『マイクじゃなくアナルバイブを突っ込んで』です!」

「「「「「マイクなんていらないわっ

～！！！！！」」」」」

画面外でマイクを投げ捨てた5つの尻はさらにギュッとお互い寄せ合って、下品なお尻で映像を埋め尽くす。
タプタプとカメラの音声に、尻のひっつく音が歌を邪魔した。

「「「「「寂しい想いをさせないで。何もハマっていないならそれが証拠なの～。
見れば分かるでしょう？一番ぶっといのをぶち込んで～～っ」」」」」

聞こえづらくても何の問題もない卑猥で救いようのない歌詞だ。
それをピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネ…ぷりんとめろんが艶っぽく大声で歌い始めていた。
…

「ケツ穴っ！ケツ穴っ！！」

はもりが嬉しそうにペンライトを一生懸命に振る。
もうこの異常な光景はアイドルにとって日常なのだ。
はもりのような子でも、何の疑いもなく受け入れてしまっている。

「ハメキュアっ！ハメキュアっ！！」

「「「「「そぉ！私のケツ穴っ。ミッチミチ！ケツ穴っ、ミッチミチッ！！
ホントはバイブじゃなく〝貴方〟のが欲しいけれどぉ～♪」」」」」

歌詞にはないライブだけのアドリブパート。
5人が身体を起こして振り返って、顔を見せた。

今までお尻ばかりで顔を見せていなかったのは、アイドルとして最悪レベルだと、うたは思う。
上気したエロエロな笑顔を浮かべるダークイーネ達に挟まれて、ぷりんもめろんも同じ顔で並んでいた。

「「「「「今日はこれで『みんなと！』我慢するわ～～♪」」」」」

5人が持ち出したのはペンライト。
妖しく紫色に光るそれを高く掲げる。
そしてお尻の穴に全員が躊躇なく突っ込んだ。

「ひっ……」

うたは思わず引きつり声をあげた。
ジュブジュブッ♪グチュグチュッ♪と卑猥な水音を盛大にあげて、光るペンライトがケツ穴を出入りしている。
熱狂的なファンの歓声。
アイドルを冒涜するようなケツ穴オナニーにインサートされる、ぷりんやめろん達のアヘ顔。
狂っている……
全部、全部……おかしくなってしまっている……

「お姉ちゃん♪しゅごいねっ♪
これぇぇっ……気持ちいいぃぃっ……❤」

目の前では感化されたはもりが、お尻にペンライトを突っ込んでいた。
うたは止めることも出来ずに棒立ちしている。

「お姉ちゃんもぉぉ……しよっ♪」

「う、うんっ……」

自然と返してしまっていた。
渡されていたペンライトをお尻にあてがう。
ヌプリぃっ……と少しの抵抗はあったが、お尻の穴がペンライトを呑み込んでいく。

「ハメキュアと一緒にぃぃぃっ♪
お姉ちゃんも……ケツ穴で気持ちよくなろぉっ❤
おほぉぉぉっ♪」

はもりは跳ね上がるように喜ぶと、グチュグチュとケツ穴をペンライトでかき回す。

「そ、そんなにしたら……
ああっ♪だ、だめっ……♪」

うたも自分でペンライトを上下に動かしてしまう。
普段からマイルズに弄られているせいか、その感触を思い出してなのか、とても心地よかった。

「お、お尻なんて……ダメなのに……
あうぅぅっ♪
こんなのキラッキランランじゃないのにっ……」

自分に言い聞かせるように、うたはつぶやく。
でもその声色には、艶やかなものが混ざり始めていた。

「「「「「ケツ穴っ！！ミッチミチミッチミチッ、
ミチミチミチッ～！！」」」」」

絶叫に近いアヘ声を交えて、歌はいつの間にかクライマックスを迎えていた。
うたはハッとして、画面に向き直る。
「「「「「イクぅぅぅぅ～～❤❤❤」」」」」
5人は愛液を飛び散らせながら、お尻からペンライトを勢いよく噴射した。
轟音のような歓声。
「わたしもイクぅぅぅぅっ～❤」
はもりも画面の中のぷりん達と同じアヘ顔を浮かべている。
「あっ……ああっ……」
うたは素直に出遅れたと思った。
お尻に突っ込んだペンライトに力が籠もる。
「「「わたし達、ケツドルママキュアも負けてられないブヒぃぃぃっ～！
ブヒブヒブヒィィィッ～❤❤❤」」」
豚鳴きしながら、鼻を指で吊り上げ3人のママキュアが颯爽と登場した。
「あっ！お母さんだっ♪」
はもりも目を輝かせてはしゃぐ。
新曲のコンセプトなのだろう。
お尻に書いた豚の文字に合わせて、ブヒブヒとけたたましく鳴いている。
家族がこんなことを年甲斐もなくやっていたら、確実に目を逸らさずには居られない。
少なくとも絶縁する。
「「「ケツドルママキュア！！女の子はみ～んな〝貴方〟の前では『牝豚』なんだから！！
ブヒヒィッ❤ブヒブヒぃぃぃっ～～❤❤❤」」」
（〝あの人〟の前では……ってことだよね……）
ハメキュアが……ぷりん達がバイブよりも欲しいオチンポ様を持つ〝貴方〟は……
ママキュアが……お母さん達が恋い焦がれ、ケツを振って媚びる〝貴方〟は……
それはきっと……
「お姉ちゃん♪お尻をこっちに向けて❤
はもりが書いてあげる♪
後でわたしのも書いてね。お揃い～❤」
はもりが赤いペンを持って微笑んでいた。
うたは自然とお尻を彼女に向けてしまう。
そして妹の可愛らしいお尻に……どれぐらいの大きさで「豚」と書こうかをテレビ画面を観ながら考えていたのだった。
――――――
「いやいやっ！遅れてしまったね。
暴徒化したファンの醜いこと。
蹴散らすのも一苦労だったよ！
うたはどうだい？
いきなり倒れたからね。
心配していたんだ。
くくっ！その様子だと……取り越し苦労みたいだけどなぁっ～！」
咲良家に勝手に上がり込み、うたの部屋に飛び込んできたマイルズは本気で心配した様子だった。
だが部屋でマイルズを待っていたうたを見た瞬間に、ゲスい笑顔を浮かべる。
「わたし……思いついたんです……
まだ……お母さん達もやってないこと……」
シーツをギュッと握りしめ、前を隠しているがうたは、一糸まとわぬ姿だった。
その可愛いお尻は廊下から漏れる光に当てられて白く美しく輝く。
そこには可愛い女の子らしい字で尻たぶに目一杯、「豚」と書かれている。
マイルズは部屋にズケズケと踏み込むと、そのお尻を遠慮なく鷲掴みにした。
「ひゃ、ひゃうぅぅっ……♪
つ、つよぃぃっ……やっぱりっ……
マイルズさんのケツ揉みは……ううううっ♪」
「ご主人様だろ！
お前の母親と一緒になりやがれ。
ほらっ……！言ってみろっ……！」
「ご、ご主人様……」

うたは恥ずかしそうに目を伏せる。
初めて〝ご主人様〟と呼ばせることに成功したマイルズは上機嫌に「ヒュゥゥッ！」と口笛を吹く。
その股間はムクムクとズボンを押し上げていた。

「さあ、何を思いついたんだ？
ベッドの上で聞いてやるから、ケツ穴処女を差し出せ！」

ムードも何もない。
マイルズの指がケツ穴に食い込む。
でもうたは抵抗しない。

それどころか顔を真っ赤にしながら、マイルズの股間を裏手で擦り始めた。

「ご、ご主人様の協力がないと出来ないけど……」

「いいぜ。何でも協力してやる！
だが……アイドルプリキュアは今日限りで卒業だ。
お前達5人は新しいグループに生まれ変わる！

その名前はそうだな……
キミの〝ネトラレ〟メスドルケツキュア！
何かどうだ～～!?」

うたは目を丸くして驚く。
そして全てお見通しとばかりに邪悪に微笑むマイルズのされるがまま、ベッドに押し倒されるのだった。

――――――

「本当に出てくれるかな……
アイドルプリキュア……」

キュアアイドルのぬいぐるみを抱きしめた男の子が、熱狂的なファンの雄叫びの中でビクビクしながら母親に問いかける。
母親は困惑気味に何を言ったらいいか分からない様子だ。

「ケェ～ツッ！ケッ～～ツッ！！」

子供の煽りのような掛け声が渦巻くなか、男の子は涙目になっていく。

「大丈夫だよ、キュアアイドルは君を裏切らない」

男の子の頭を隣にいた青年が、力強く撫でた。
見上げる男の子に、青年は頷きながら微笑み返す。

「たとえどんなに闇深いステージにでも。
彼女はキラキラに輝く。絶対に」

響カイトの眼差しは自信に満ちていた。
例え自身も落ち目のアイドルとして、事務所から圧力をかけられていたとしても、うたやファンを裏切るつもりはなかった。
それどころかマイルズからうた達を救う為に日々奔走していたのだ。

表舞台に出れなくなっていたアイドルプリキュアが、ママキュアとハメキュアとのタイアップとはいえ、ドームツアーに登場するとなれば、居ても立っても居られなかった。

運よく最前列組のチケットを取れたカイトは、うた達アイドルプリキュアの復活を心から固く信じている。

会場の照明が落とされ、スモークが焚かれた。
暗闇の中に人影が動く。

「キュア……アイドルかな？」

「いや……あれは……」

カイトの表情が曇った。
右舞台の3つの人影にスポットライトが当たる。

「「「年増牝豚ケツドルママキュア！イキま～すっ❤❤❤
ブヒブヒィィッ～～❤❤❤」」」

音、睦美、愛の3人がお尻をお互いにパンパンッと打ち合わせながら雄叫びを上げる。
お尻にデカデカと書かれた豚の字も3つ仲良く揺れていた。

「オオオオッ～～!!」

割れんばかりの大歓声。
男の子は思わず耳をふさいだ。
カイトも顔を顰めて、壇上を睨む。

ママキュア達は〝ごく一部〟でしかない彼らの不快感なんて気にしない。
〝大勢のファン〟達に向かって、デカ尻を惜しみなく振り続ける。

「私が一番、デカ尻ぶひぃぃぃっ!!」

「いいえっ！私よっ！

デカ尻ナンバーワンの座は譲らないブヒッ！！」

「二人とも仲良くしましょう♪
この後の人気投票で……すぐに分かるんだから❤
ぶひひぃぃぃっんっ♪」

3人の視線が一段高い壇上に注がれた。
そこには一際長身の男が暗闇の中に立っている。

「まったく牝豚どもめ。
口が軽いぞ！
ケツは重たくて揉み心地がいいのに、脳みそはこれだからな～！
ああっ！全国のファン諸君。
私はプロデューサーのマイルズだ。

今日は私のプロデュースした3組のアイドル達による人気投票をしようと思う。
皆はどのアイドルがお気に召したかを素直に教えてくれ！

くくくっ！一番人気のないグループは解散だ！！」

会場にどよめきが走る。
カイトは唇を噛んだ。

「この見世物の為に……アイドルプリキュアを呼んだのかっ！」

ほとんどの客はエロ目的で参加している。
正統派アイドルのアイドルプリキュアには勝ち目がない。
憤るカイトと不安そうな男の子に、マイルズが意味ありげに流し目を送った。

「という訳で張り切れよっ！
キラキランドとクラクランドを統べるバカ尻どもっ！！」

「「「はいっ！！
ケツ穴ミチミチ！アイドルハメキュア！！
負けないわっ！！」」」

左の舞台で立ちポーズを取っていた3人にスポットライトが当たる。
ピカリーヌ、チョッキリン、ダークイーネがほとんど生地のない薄い服装で身体のラインを見せつけながら、忙しなくグチュグチュとケツ穴に挿したバイブを上下させていた。

「ウオォォォッ……！！」

またもやファンの歓声が轟く。
最早、熱狂的と言っていい。

会場のボルテージは最高潮だ。

「盛りの過ぎた賞味期限切れの人間どもには負けはしないっ！！
わらわ達こそが世界そのものなのだっ！！
あひぃぃぃんっ♪ケツ穴バイブ利くぅぅぅッ～～❤❤❤」

偉そうな口調でイキリ倒してから無様堕ちするのが、ダークイーネのキャラだ。
失笑と嘲りを受けることでメスイキしまくるマゾ豚だが、それなりにその変態ムーブも人気がある。

「まだ女王様気取りで偉そうなこと言うんじゃないわよっ！
お前が一番最下層のバカメスだろうがっ！
んふうぅぅっ♪ケツ穴バイブぅっ、最高ぉぉぉっ❤❤❤」

「自分だけ目立とうとするのは見るに耐えませんわ。
人間の方々もきっと思っているでしょう？
さあ、皆さん見て下さい♪
私達のケツ振りダンスをぉぉっ～❤❤❤」

バイブをぶっ刺したままのお尻を高く掲げ、高貴な3人とは思えない痴態を晒す。

「こんなの……こんなのって……」

「人前で見せつけるように……女性をっ！」

男の子はさらに動揺し、涙目になった。
カイトもらしくなく声を荒げる。
その怒りはマイルズに向かっていた。
全ての首謀者……
この変態的なブームを作り出した男。

支配者のように壇上で振る舞うマイルズに、カイトは憎しみを抱いていた。
だが歯ぎしりをした音を聞いた瞬間。

同じく闇に落ちた親友、カズマの事を思い出した。

（違う……君を応援する姿や気持ちは……
こんなのじゃない）

カイトは舞台を向き直り、キッと決意を秘めた真剣

な顔をする。
そして青緑色の光を迸らせた。
壇上の悪鬼達に負けない希望の光を。

「お、お兄ちゃん……!?」

男の子は目を輝かせて、カイトを見上げた。

「ブヒイィィッ!!
忌々しい光ねっ!!
私達よりも目立とうとするなんてっ!!」

「ケツ穴バイブも挿れてないくせに、偉そうにするんじゃないわよっ!!!」

ママキュアやハメキュア達もその光に気圧されながら、悪態を吐く。
会場ではファンたちからブーイングがとび始めた。

「ブゥゥゥッ～～!!」

それでも、カイト……キュアコネクトは手を伸ばす。

「来るんだ、アイドルプリキュア。
ハートの絆で皆の荒んだ心に、愛を取り戻すんだっ!!」

「そうだね、カイトさん。
ありがとぉ～❤」

スポットライトがマイルズの真横に注がれた。
そこにはいつもと変わらない姿のキュアアイドルが、キラキラの笑顔で立っていた。

「キュアアイドルだっ!!」

男の子の表情がさらに明るくなる。
希望に満ちたその瞳。

それはカイトも同じだった。
陰惨なステージの中で、美しく輝くキュアアイドルに思わず頷いた。

「でも、そんなのじゃキラッキランランじゃないかな～♪
もっと貢いでくれなきゃ、わたしの処女マンコはあげれないよっ❤」

「……えっ?」

ウィンクをして、屈託のない笑顔を返すキュアアイドル。
そしてくるりと可愛く回ると、お尻をカイト達に向けた。

何も履いていない、綺麗な生尻を惜しげもなく晒す。
会場のモニターいっぱいにキュアアイドルのお尻がアップで映し出された。
脚には凄まじい量の使用済みコンドームを吊り下げている。
精液がタプタプと中で揺れた。

キュアアイドルは元の衣装のまま、変態的な露出行為に及んだのだ。
だがそれだけではない。
男の子が絶句する。

「なに……あれっ……」

ブピュルゥゥッ～♪ブピュブピュ～～❤❤❤

「はうぅぅっ♪漏れてきちゃうぅっ～❤
せっかくご主人様にケツ穴いっぱいに注いで貰ったキラッキランラン❤
ダメなのにぃ……とまりゃないぃぃぃっ♪」

キュアアイドルはアヘ顔を浮かべながら、尻穴から精液をひねり出した。
あまりに扇状的な光景だった。

ママキュアやハメキュアのようなエロ衣装じゃない彼女の……淫れる姿。

「ははっ!
いくらでもぶち込んでやるさ。
〝俺だけのアイドル〟うた」

マイルズは勝ち誇り、キュアアイドルのお尻を揉んだ。
またブピュルゥゥッ❤と精液が飛び散る。

「やぁんっ♪ご主人様、尻揉みありがとぉ～❤
このまま皆の前でハメハメして欲しいなぁ～♪
〝ご主人様だけのアイドル〟だって、皆に思い知らせてあげた～いっ❤❤❤」

キュアアイドルはマイルズに枝垂れかかりながら、客席に流し目を送る。
カイトや男の子同様に、会場は静まり返っていた。
ただただショックを隠せないように。
それはそうだ。
清純で憧れだったアイドルが、男にネトラレたのを

スポンサー様
募集中♥
使用済♥

見せつけられたのだから。

「アヘアヘアヘ❤I Love プリキュア❤❤❤」

「ハメハメハメ❤You Love プリキュア❤❤❤」

「キミの〝ネトラレ〟メスドルケツキュア❤❤❤」

「笑顔 Light Up！イエ～～イッ❤❤❤

ブピュルゥ！ブチュルゥゥッ……♪

暗闇の奥からキュアウィンク達４人も歌いながら現れた。

それぞれに挑発的にお尻を振り、惜しみなくケツ穴から精液を吹き出す。

阿鼻叫喚の地獄のような光景。

男の子はあまりのショックに倒れ込んでしまった。

カイトですら、涙目になっている。

「キラッキランランっ♪ハマろう❤

さあ幕開け、ＮＴＲ！

ネトラレは（ニッコリ❤）

ドマゾの（ドッキリ❤）

ステキな第一歩～♪」

投げキッスをしながら、キュアアイドルは蠱惑的に微笑む。

その時だった。

観客席から、また割れんばかりの歓声が響き渡ったのは。

「スゲェェェッ！！ウオォォォォッ～～！！」

アイドルプリキュア……堕ちたメスドルプリキュア達に凄まじい勢いでサイリウムが振られた。

「おっと！

私に公開ケツハメを強請るような牝豚達に皆さん、キラキラが止まらないようだ。

キミの思った通りだ、うた」

執拗に本名を晒しても、キュアアイドルは怒らない。

期待に胸を弾ませて、お尻をマイルズに向けた。

「じゃあシテくれるの？

うわぁっもぉっ❤

キラッキランランが止まらないぃぃっ❤❤❤」

「ずるいですよ！うた先輩っ！

私達も、もっとぉっ❤」

「ええ、うただけじゃ……

ご主人様を満足させられないわ❤❤❤」

同じく精液をケツ穴から垂れ流しながら、こころやな、ぷりんにめろんがお尻を突き合わせて並ぶ。

征服者にのみ許された光景。

５つ並ぶ牝尻たち。

それも、大型モニターに映し出される。

アイドルの最大の禁忌。

〝誰かのもの〟になること。

それをファンの目の前で見せつける。

キミのアイドルがネトラレるのを。

うたとマイルズが考えた……究極のファンサービス。

「くくくっ！どれにしよ～かなぁ～？」

チンポを出したマイルズがそれぞれのお尻をデカマラで叩いていく。

もうキュアコネクトも光を喪っていた。

カイトはただ絶望して蹲る。

キュッと股間を押さえながら。

「だ、だめだ……ああっ……」

そんなカイトを見下ろしながら、お尻を振るキュアアイドルはニッっと屈託のない笑顔を浮かべた。

その直後、マイルズが「キミに決めたっ！」と彼女にぶち込む。

「おほぉぉぉおっ❤❤❤

ケツ穴いっぱいにぃぃっ……オチンポ様キタァァァっ～～❤❤❤」

スマイルがアヘ顔に歪む。

永遠に手に入らない〝推し〟なのに、ファン達の鬱勃起は最高潮に達していく。

だが彼らは知らない。

自分達が圧倒的に勝てない男。

それが最高のエッセンスになるということを。

マイルズの射精でケツ穴から揃ってザーメン噴水をするキュアアイドル達を見た時に、ファンはどう思うだろう？

うたは今から胸の高鳴りが止められない。

伝説のステージは今から始まるのだから……

あとがき

キミプリ本お手に取って頂きありがとうございます！！
前年描こうと思いつつあまり描けなかったのでがっつり
描かせて頂きました！！

なんか中途半端な部族もの感も漂っていて、どうするかなと
迷ったんですが(部族ものにするつもりはなく)まあ
これはこれでいいかでそのまま突き進んだ感じですw
映画のアイアイ島を絡ませた設定にする予定もあったんですが
尺が足りず、最後にテラちゃん出たのはその流れです。

顔紋や今回アイドルとキッスの二人以外堕ち済み
ということで合う合わないもあるかもですが
ちょっとでも楽しんで頂けていたら嬉しいです。

暖かくなってきてテンションもあがっているので
夏コミ目指してまた頑張ります！！良ければ
またお付き合いのほどどうぞよろしくお願いします！！

さなつき

奥付け
○発行・著者　さなつき
○サークル　アヘアジフ
○Email　neko998-aheaji@yahoo.co.jp
○Pixiv　41042507
○Twitter　@sanatuki0510
○印刷　ねこのしっぽ様
○発行　2026/4/25

キミの○○○○メスドルケツキュア♪
～ケツ振りで再チャレンジ牝豚アイドル♪～～
○著者　日高久志
○pixv　http://pixiv.net/users/4853918
○ノクターン　http://xmypage.syosetu.com/x8371q/

日高さん
今回もありがとう
ございました!!

制作
アヘアジフ

この作品は
二次創作であり
原作とは一切関係ありません

複製を禁止する

便器
ご主人さま
LOVE♡